

念仏の声

編集・発行：「御同朋の社会をめざす運動」岐阜教区委員会広報部
〒500-8882 岐阜市西野町3丁目1 電話(058)262-0231 FAX(058)263-7353
http://www.hongwanji-gifubetsuin.jp/ E-mail:info@hongwanji-gifubetsuin.jp

2020(令和2年)10月1日発行 vol.244



2020(令和2)年盂蘭盆会の様子
(他、マスク着用、アルコール消毒にもご協力いただいております。)

コロナ禍における寺院活動

新型コロナウイルス感染症に関する「念仏者」としての声明 ③
オンライン法事 ④ ⑤ 新型コロナウイルスとの向き合い方 ⑤

・如燈風中 ② ・法話「おいていかないで」 ⑥
・法話「あらゆる命が包まれて」 ⑦ ・教務所(別院)からのお知らせ ⑧

如燈風中



岐阜教区教務所長
御同朋の社会をめぐる運動
岐阜教区委員会委員長
泉井敬文

「イ〜チ〜、ニ〜の〜、サンツ〜!」ゴ〜ン〜。岐阜幼稚園年長組の園児たちと一緒に、別院の鐘楼で梵鐘を撞きました。去る7月9日、平和の鐘の時のことです。

子どもたち一人ひとりを見ていると様々で、梵鐘の大きさに少し引き気味の子、自分が撞くことにワクワクして待ちきれない様子の子、鳴るたびに音の大きさに笑顔で反応する子や、両手で耳をふさいでいる子、中には興味なさそうな子など、様々な様子がうかがえました。園児二人一組で(私も介添えしながら)一撞きするたびに、別院本堂に向かって小さな手を合わせ念仏していました。本当に微笑ましい光景で尊い思い出したことです。

「死者約900人、負傷者1000人以上、焼けた家屋約2万戸以上、空襲による罹災者は最大10万人で、市街地の約7割を焼失し、一夜の空襲により、まさに焼け野原になってしまった(総務省HPより抜粋)」。昭和20年7月9日の岐阜空襲のことです。梵鐘を撞く子どもたちを見ながら、空襲での死者を含む被害者の中に、この子どもたちと同じような年代の子どもが含まれていたのかと思うと、言葉として表現しよのない気持ちと、目の前の子どもたちが一際愛おしく感じられ、戦禍に巻き込まれてしまった会ったこともない子どもたちのことを思わずにはいられませんでした。全員が鐘を撞き終わって、幼稚園の先生

が子どもたちに、「今日の、鐘を撞いたことを忘れずに、絶対に戦争はしちやだめ、という強い気持ちと、みんなを思う優しい気持ちを持ちましょうね」といわれていたのを聞き、利害関係を一切含まない本当の優しさは、真の心の平穩からなることを先生に教えていただきました。『仏説無量寿経下巻』に「兵戈無用」とあります。浄土三部経現代語版(P24)で少し前から引用しますと、「仏が歩み行かれるところは、国も町も村も、その教えに導かれたいところは無い。そのため世の中は平和に治まり、太陽も月も明るく輝き、風もほどよく吹き、雨もよい時に降り、災害や疫病などもおこらず、国は豊かになり、民衆は平穩に暮し、武器をとって争うこともなくなる。人々は徳を尊び、思いやりの心を持ち、あつく礼儀を重んじ、互いに譲りあうのである」とあります。線部(筆者線引き)は、平和であることを強調せんがための文言でしょうが、いずれにしても仏法が要となって、心の平穩、世の平穩が保たれることを教えられます。

「一寸先は闇」という言葉があります。今号「如燈風中」執筆時は7月で、世の中は一度治まりかけたコロナ感染症も再び拡大傾向にあり、今までの生活様式の根本的な見直しを、より一層行っていかなるを得なくなりました。一方、日本各地で豪雨による甚大な災害がおこり、尊い命が奪われ、コロナ感染が懸念される中、不安と不自由な避難生活を強いられる方が多数おられます。僅か3か月ですが、今号が発行される10月には、世の中はどのようなふうなものでしょうか。今を生きる私たちのため、次代を担う子どもたちのために、一寸先を明るく、将来を豊かにするために、み教えを中心として生きる私達が今できることは何なのでしょう。

新型コロナウイルス感染症に関する 「念仏者」としての声明

現在、新型コロナウイルス感染症は世界中に拡がり、収束する気配を見せていません。日本でも緊急事態宣言が発令されるなど、状況は新たな段階に入っています。

まず、このたびの新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた国内外の多くの方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、罹患されている皆さまに心よりお見舞い申しあげます。さらに、特に高い感染リスクにさらされながらも、懸命に治療・対策にあたられている医師、看護師をはじめとする医療従事者の方々に深く敬意と感謝を表します。

こうした危機的な状況において、世界中の人びとが共に力を合わせ、励まし合って対応しています。しかし、症状が出ないために感染に気づいていない人の行動が、感染拡大の一因となっている場合もあるのではないかと指摘されています。感染症の危険性や対処法を正しく理解し、実行するとともに、差別や偏見が拡がらないよう、一人ひとりがお互いを思いやり、注意深く行動していきたいと願っております。

釈尊しゃくそんが明らかにされた苦しみの根源である無明煩惱むみょうぼんのう、また親鸞聖人しんらんしょうにんが「煩惱具足の凡夫ぼんのうぐそく ぼんぶ」という言葉でお示しになった私たち人間の根本に潜む自己中心性に思いをいたし、このような時にこそ、人と喜びや悲しみを分かち合う生き方が大切ではないでしょうか。仏教には、「あらゆるものは因縁いんねんによりつながり合って存在しており、固定した実体はない」という「縁起えんぎ」の思想があります。新型コロナウイルスの感染拡大の原因は人との接触であるとされ、本来大切な人との「つながり」が、今は安心感ではなく、不安をもたらすものとなってしまっています。しかし、「つながり」を表面的に捉え、危険なものとして否定的に考えてはなりません。世界的な感染大流行という危機に直面する今だからこそ、私たちは仏教が説く「つながり」の本来的な意味とその大切さに気づいていく必要があります。

今重要なことは、仏智ぶつちに教え導かれ、仏さまの大きな慈悲じひのはたらきの中、共に協力し合って生きる大切さをあらためて認識し、感染拡大をくい止めることです。緊急事態宣言がコロナ危機を克服してくれるわけではありません。この困難を打開できるか否かは、多くの関係者のご尽力とともに、私たち一人ひとりの徹底した適切な行動にかかっています。

私という存在は、世界の人びととの「つながり」の中で生きているからこそ、やがて、共にこの苦難を乗り越えた時、世界中の人びとと喜びを分かち合えることでしょう。それぞれの立場において、この難局ほうとうで法灯や伝統を絶やさないために何ができるかを考え、「そのまま救いとる」とはたらいてくださるお念仏の心をいよいよいただき、共々に支え合い、力を合わせるのです。誰もが安心して生活できる社会を取りもどすことができるよう、精いっぱいにつとめを果たしてまいりましょう。



2020(令和2)年4月14日

浄土真宗本願寺派総長 石上 智康

オンライン法事

法事のことを、ある土地では「孫のまつり」と呼んでいます。お父さん、お母さんといっしょにお参りした子どもたちが、にぎやかに部屋中を駆け回り、久しぶりに出会った親戚の人たちが、なごやかに集う仏事だったからでしょう。

何日も前から、掃除をしたり準備をしたりして法事を勤めるのは大変なことです。それでも、その伝統を、今日まで引き継いでくださった先祖の願いは、仏法の相続を確かなものにしたということであつたのでしょうか。家や土地といった、形のあるものの相続と違い、仏法は目に見えません。目に見えない事を、法事という形で引き継いできてくださったのです。

ところが、今回、新型コロナウイルスの影響により、遠方の家族や親族が集まれなくなっています。自宅仏間での三密を避けたい、みんなで集うお斎は中止せざるを得ない状況になっていきます。

また、社会生活の変化で、核家族が進み、親戚や家族の繋がりが希薄になってきているのも事実です。生活の場も広がり、国外で生活されている家族が、なかなか帰って来れないということもあります。

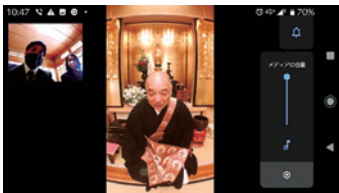
そんな中で、少しでもたくさんの方に、法事のご縁にあつていただきたく、東京築地本願寺では、インターネットを通じたオンライン法事を始めました。



岐阜教区でも、オンライン法事を始められた寺院があります。今回は、本巢市の正尊寺さんに取材に伺いました。

Q オンライン法事は、どのような方法で行うのですか？

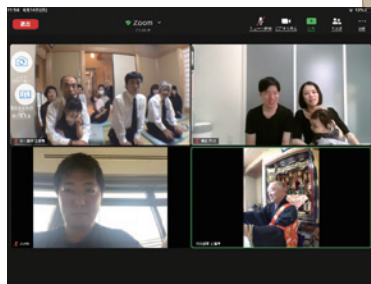
A 法事の様子をビデオカメラで撮影し、来られない方のスマートフォンやタブレットやパソコンに配信します。



お寺で法事を行う上^{あげぶつじ}仏事の場合は、庫裡仏間で法要をしている姿を、来られない方にLINEやZOOMで配信し、法話や休憩は顔を見合わせて話すテレワーク式にしています。



(写真提供：正尊寺様)



自宅での法事には、必要な機材を住職が持ち込み、遠くの親戚や親戚と、ZOOMで繋がり、テレビのワイドショーのように、双方でにぎやかに話しながら進めています。

Q オンライン法事までの手順はどのようにするのですか？

A 1. お寺にオンライン法事の申し込み

2. 通信アプリ(ZOOMまたはLINE)をスマートフォン、パソコンなどにインストール

3. 法事参加者への連絡

4. 参加者の情報をお寺に通知

5. 前日までに接続状態を確認
仕事でテレワークをしたり、学校でオンライン授業をうけておられる方がいらっしゃれば、簡単に接続できると思います。

Q 今まで、何件ぐらいオンライン法事をされましたか？

A お寺から配信したのが2件、ご自宅(ご門徒様の家)からの配信は8件ほどあります。

Q どのような例がありますか？

A 満中陰法要の際に、ご往生された方の兄弟が外国におられて、コロナで帰って来れませんでした。この方が、外国から、親族の通信アプリへの接続をされた例があります。

東京のお孫さんが、里帰り

きなかったので、オンラインで下宿先から法事に参加された例もあります。

Q オンライン法事をされた御門徒さんの感想はいかがですか？

A 法事の場合にいる方は、みんな喜んでもらえています。

東京の大学へ行っている息子さんや、帰れなかったけれど、オンラインで参加できた法事では、親戚のおばあちゃんたちが、甥っ子に会えて話ができたと喜ばれました。

施設で亡くなられた方の中陰法要をお寺でしておいてくださいということがありました。LINEで繋ぎ、お寺で法要して自宅のお仏壇でお参りしてもらったら、ありがたかったと喜んでもらえました。

Q 今後、オンライン法事を続けていけますか？

A 続けます。

オンラインでなかったら参加しなかったであろう若い子たちや、参加できなかった遠方の人たちと繋がることができます。その繋がりをきっかけ

にして、次は来て参加してもらえるよう働きかけることができます。

オンライン法事は、若い世代の方が気楽に参加できるようです。また、災害時や体調によって参加できない場合にも繋がれます。新しい法事の形です。

正尊寺のご住職が言われるように、その繋がりをきっかけにして、コロナが落ち着いたときには、みんなで集って仏法相続ができることが目標です。

人類学者の山極壽一師によると、人間は、今のところ五感の全てを使って他者を信頼する生き物だそうです。視覚や聴覚で他者と会話すると、脳で「繋がった」と錯覚するらしいけれども、それだけでは信頼関係まで担保できないのだそうです。他者の匂い、いっしょに食べる食事の味、触れる肌の感覚が、他者との関係を築く上で重要なのだそうです。

香の漂う中で、いっしょにお茶やお菓子を頂き、大きくなったねえと頭を撫でられたり、元気にしてたかと手を握り合ったりする中で、仏法相続ができるようになる日を待っています。

報告者 広報部 石博 薫

新型コロナウイルスとの向き合い方

Q 新型コロナウイルス感染症との上手な付き合い方は？

A コロナウイルスだけでなく、感染症全般にいえることですが、感染予防には体力・免疫力が大きく作用します。新型コロナウイルス感染に対しては予防が基本となります。特に新型コロナウイルスの第二波がきている状況下ではステイホームで家にいる時間が長いので、体力維持に室内でできるカラダづくりとしてストレッチや軽度の運動を習慣づけられるとよいと思います。マスク、うがい、手洗いの習慣はもとより三密回避、ソーシャルディスタンス(社会的距離拡大戦略)を保つことです。コロナウイルスは感染経路として飛沫、接触感染があり、飛沫感染が最も多いですが経験的には接触感染の率も高い印象です。ウイルスは消毒用アルコールで死滅しますので手指消毒は基本になります。感染予防策を忠実に守っていれば高い確率で感染を予防できます。感染に関しては精神的なストレスが問題になりがちですが、行動の仕方でも感染する確率をかなり下げられるわけですから、必要最低限の情報が必要ですが、それでも過度に反応せず、気持ちにゆとりをもってコロナウイルスと付き合い上げて頂けるとよろしいかと思えます。

Q コロナ社会を生き抜くためには？

A 現時点では有効な治療薬(病状が中等症以上には薬物療法もあります)が、効果が高いわけではないため、今後更にコロナ感染は拡大する可能性が高いと考えます。いつ頃終息するかもわかりません。ゴールがみえない状況下では不安ばかり強くなりがちですが、予防策として日常の自己管理が徹底されていけば、感染リスクは下げられるため、実践していくことが肝要です。そうすることで精神的な安定も図ることができると思います。まずひとりひとりがコロナに負けぬ強い精神力を持ち大丈夫という安心感をもってこの状況下を生き抜くという強い信念を持つことが大切であると思います。

社会医療法人 志聖会 理事長

華陽組 正福寺

竹 腰 篤

おいていかないで

コロナ禍において本来なら大勢の人で賑わう高山の古い町並みに人が一人も歩いておらず、鴨の親子が散歩しているのを見かけました。三十四年高山で過ごし初めての光景です。

私たちは今大きな生活の変化を求められています。マスクの着用、リモート対応、人との密を避ける。色んな変化がありますが、そのような状況下ですぐに適応される方もいれば簡単にはいかない方もみえます。私が勤める福祉施設でも思うように生活の変化に順応できず、元の生活を握りしめ離すことができず苦しんでいる方が大勢いらっしゃいます。そこで「WITHコロナ」と言われても適応できない方は「おいていかないで」と思うようです。そんなとき一つ出来事を思い出しました。今から十数年前、大阪でお盆参りのご縁をいただいたときのことです。七十代ご夫婦のご自宅でした。お仏壇の前に座らせていただくとお仏壇の前によだれかけが置いてありました。私はお孫さんが遊びに来られたときに置いていったのだろうとよだれかけを掴んで、横に避けようと思いました。すると後ろ

から「あつそれは」と奥さんの声がしました。はっとしてお仏壇の周りをみまわすとお孫さんの写真が沢山ありました。お孫さんを亡くされていたのです。

私は混乱してしまい、上手く話すことができずお勤めの後「先ほどはすいませんでした」と謝罪しました。すると奥さんが「いいんです、私はホントに（よだれかけ）離す事ができず外出の時もそれを持って行きますが、家族はみんないつまでも握りしめていたら駄目だ。いい加減離していきなさいと言います。やっぱりそうですよね？」と私に聞かれるので思わず、「そうですね、時間をかけてご家族と同じように離しましょう」といいました。奥さんはどこか悲しそうな顔をされていました。次のご自宅に向かう途中奥さんの顔を思い返し、あれでよかったのだろうか。と私は悩んでいました。結局、途中で引き返し「先ほど私は間違えました。私たちが聞かせていただいてる阿弥陀様の救いは泣いている人に泣き止めというような救いではありませんでした。握りしめたよだれかけを離さないと救われないというような仏様ではありませんでし



た。お孫さんの想いと一緒に阿弥陀様に手を合わせていきましよう」と伝えました。

そして後日、手紙が届きました。その一部に「いつまでも（よだれかけを）離せない私は家族からもおいていかれている。そんな思いでした。でも、離さなくても大丈夫なんだと聞かせてもらい、孫への思いを握ったまま安心して手を合わせている」とありました。

現在のコロナ禍と状況は異なるでしょう。しかし奥さんのように変化する周囲に困惑し、孤独な想いを抱えている方は大勢みえるのだと思います。今回はその方々に変化しなくてもいいよといっているのではありません。今の状況に対応する必要は少なからずあると思います。けれどもそう思ってもできない人たちも確かにいるのです。その人達は決して一人ではない。おいてなどいかない。

阿弥陀様の救いというのは今の状況に適応し前向きに取り組んでいる方にも、どうしても現実をうけ止められず以前の生活を掴んだまま離す事ができない方にも、私にまかせよと呼び続けて下さっているのです。南無阿弥陀仏

本願寺派布教使
飛騨組眞光寺

森 下 広 大

あらゆる命が包まれて



親鸞聖人の著された『唯信鈔文意』という書物のなかに「さまざまなものは、いし・かはら・つぶてのごとくわれらなり」という一文があります。

もちろんこのお言葉は抜粋ですので意味をなす前後があるのですが。親鸞聖人が様々な境涯にある人々やご自身の命をひきくるめて語られたものです。皆さんはこのお言葉にどのようなイメージを持たれますか。人の命をいし・かはら・つぶてとは何だ、けしからんと思うかもしれません。しかし後のご文を読みますと、仏様のあたたかい慈悲にありとあらゆる命が包まれていると転じられます。

話は変わりますがある日のことです。月曜日のお参りをご門徒様のお宅で勤めるため車を走らせていると、視界に一匹の大きな狼が映りました。岐阜は山が多いので山手で見かけたならば「ふーん」と眺めるものの、私が見た場所は岐阜市内、山から遠く離れた平野部だったので、発見した瞬間「うわ、大きいのがいる」ととても違和感を覚えました。

動物ついでもう一つ、私が住むお寺に狐が出現しました。境内を歩いているとふと動物の気配がしたので目をやると猫よりも二回り程大きな生き物が…狐です。夜には本堂の外側照明の下に陣取り我物顔で「コンコンコ

ン」と遠吠えをするので腹が立ちます。また巣を作っているであろう笹が群生した付近には糞がしてあります。調べてみると糞中に含まれているエキノコックスという寄生虫が誤って人体に入ると肝臓に重い病気をもたらすのだとか。糞の処理をするぐらいはどうかということはありませんが、重い病気に悩まされる可能性があるとかわかった瞬間、何とか追い払う方法はないだろうか調べている自分の姿がそこにはあります。

猿の話で覚えた違和感と、狐の話で追い払う方法を考えている私には共通点があります。それは何かと言いますと自我の価値観即ち煩惱に基づいた境界線を作っているということです。理解できるものや好きなものは良いけれど、許せないものや不安を促す存在にはその線の外側にいて欲しいのです。これらは私たちが他の生き物にだけ抱く感情かというところやらそうでもないようです。人間の世界で今猛威を奮っているコロナウイルスに関する医療従事者や患者に対する偏見が問題視されています。インターネット(SNS等)内での誹謗中傷など人々同士も克服すべき共通課題が山積しているのです。

それならば常に切り捨てる強者の側にまわれれば…と横暴な論理もあるかもしれませんが

が、煩惱に基づく視点の中で生きていくと結局いつかは切り捨てられる側になるかもしれないという構図が見えてきます。いつか打ち捨てられていく不安におののきながら勝者であり続けなければいけない一生涯は私にとつては息苦しく辛く思えてなりません。自分で答えが見つけられない抜け出せないそんなとき、親鸞聖人の仰られた「いし・かはら・つぶてのごとく」と煩惱にまみれる私ごと「如来の御ちかひをふたごころなく信樂すれば、撰取のひかりのなかにをさめとられまいらせて、かならず大涅槃のさとりをひらかしめたまふ」と南無阿弥陀仏が撰め取って決して捨てないと明かし、猿や狐や私を含め全ての命に仏様の光が差し込み穏やかであたたかい慈悲が沁み渡ります。命の境界線を作らないおさとりの世界は煩惱の鎖から解き放たれて、互いに捨て合う螺旋から抜け出せる有り難さが広がります。生きとし生ける命を大切に護り救う仏様に浄土にて成らさせていただけると賜ります。私たち念仏者はそんなお約束を娑婆で仏様からいただいたのですから、危うい煩惱を携えつつも、常に南無阿弥陀仏(智慧の光)に照らされ我が身を振り返りながら許し合い支え合い生きてまいりましょう。

本願寺派布教使
丸一組願明寺

田中秀哉



岐阜別院八角堂 修復完成慶讃法要

来る十二月六日(日)午前十一時
三十分より、八角堂修復完成慶讃法
要を勤修いたします。

八角堂(旧名称『忠魂堂』)は、昭和
十三年、戦死者を丁寧に埋葬する合
同納骨堂として建立されました。
史料には「遺骨受領の為遠く各地
へ出張し、戦死者の増加に伴う事務
処理に万善を期すると共に、納骨台
帳の整備に遺漏なきを期したが、一
切の書類は岐阜市空襲の際に焼失し、
いたく惜しまれている」とあり、戦中
は戦死者が丁寧に埋葬され、その台
帳類も整備されていましたが、昭和
二十年七月九日に岐阜市一帯を襲っ
た空襲により、本堂その他諸堂と

もに埋葬者を記した台帳類一切を焼
失し、埋葬者数等は不明であります。

戦後、非戦平和の誓いのもと、毎
年の恒例として全戦没者追悼法要を
勤修し、平成十八年には『英霊と仰
がれた戦死者も、空襲によって犠牲
になった一般市民も、等しく戦禍に
よって犠牲になった戦没者である』
ことから『八角堂』と名称が変更さ
れ、令和二年には修繕を加え、合同
埋葬墓として再びその役目を再開い
たします。

この度の慶讃法要は、岐阜別院報
恩講満日中法要に引き続き、八角堂
前に出陣を設置して勤修いたしま
す。なお、法要には各組より代表出
勤いただき、また岐阜教区香光雅楽
会による舞
楽献納も予
定しており
ます。皆様
のご参拝を
心よりお待
ちいたして
おります。



お知らせ

岐阜別院

「報恩講法要」

「八角堂修復完成慶讃法要」

のご案内

十二月四日(金)

午前十時 日中法要

午後一時 逮夜法要

十二月五日(土)

午前十時 日中法要

午後一時 逮夜法要

午後六時 帰敬式

午後七時 初夜法要

十二月六日(日)

午前十時 満日中法要

午前十一時三十分

八角堂修復完成慶讃法要

ご講師

佐々木義英師(本願寺派司教)

さまざまな布教使による
ご法話が聴けます

「西本願寺の時間」

岐阜放送AM1431KHZ

毎週土曜日

午前6時25分～6時35分

絶賛放送中

「子どもたちの

笑顔のために募金」

「ご協力をお願い

宗門では、自他共に心豊かな社
会をめざす取り組みの一環として
「子どもたちの笑顔のために募金」を
行っています。この募金は、国外で
は海外にある西本願寺の関係機関な
どと連携して、貧困に苦しむ子ども
たちを支援します。また、国内では
子ども食堂や学習支援などの活動、
児童養護施設などで暮らす子どもた
ちのために活用いたします。

定期的に『宗報』・本願寺派ホーム
ページなどで取り組み状況をはじめ
募金の使途を報告いたします。

郵便振替

口座名

子どもたちの笑顔のために募金

口座番号

00940・8・282766

※組単位での払い込みの際は、組名
を明記してください。

領収書名を明記してください。